

授業改善研修講座

| | |
|------------------------------|---|
| 小学校 第6学年 学習指導案 | (題材名) 「きれいなひびきで」 日時 9月22日(水) 5校時 場所 第一音楽室等 学級 高松小学校 6年1組(男子23名 女子13名 計36名) 指導者 盛岡市立高松小学校 木村 純子 |
|------------------------------|---|

1 題材について

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領の内容「A表現(2)の歌詞の内容や楽曲の構成を理解して、それらを生かした表現の工夫をすること」、「A表現(2)のイ拍の流れやフレーズ、音の重なりや和声の響きを感じ取って、演奏したり身体表現をしたりすること」、「A表現(3)の呼吸及び発音の仕方を工夫して、豊かな響きのある、自然で無理のない声で歌うこと」にかかわる学習を行うが、ここでは特に、「A表現(2)のイ拍の流れやフレーズ、音の重なりや和声の響きを感じ取って、演奏したり身体表現をしたりすること」の内容を重点に行わせる。

「荒野のはてに」では、三部の音の重なりに簡単に触れさせることで、音の重なりや和声の響きを感じ取らせる学習の導入とする。「山田耕筰の歌曲」の「この道」と「赤とんぼ」では、歌声による様々な演奏形態について知り、重唱や合唱の美しさを味わって聴くことで歌唱の表現活動への意欲付けとする。また、「ふるさと」では、歌詞に込められた思いや気持ちを感じ取って、それらを生かした自然で無理のない歌い方を工夫するようにし、三部合唱の音の重なる響きの美しさに触れていく。「風を切って」では、音色や響きのバランスの取れた、まとまりのある合奏を工夫していく。

(2) 児童について

全体的に歌うことが好きな児童が多く、一生懸命歌う姿が見られる。しかし、男子が多いこともあり、力みすぎて地声で歌ってしまう児童も中には見られる。また、5学年の時に、「星の世界」の教材や卒業式の合唱で三部合唱に触れてはいるものの、音程がうまくとれず、音が響き合う美しさを十分に体感できずにいた。音をよく聴いて音を重ねる楽しさを感じ取らせながら、繰り返し合唱を経験させることが大切であると考える。

(3) 指導の構想

①歌唱教材「荒野のはてに」「山田耕筰の歌曲」「ふるさと」では、曲想を感じ取った上でその表現に合う呼吸や発音の仕方を工夫する活動を取り入れる。さらに、少人数のグループ活動の中でトーンチャイムを用いたりハンドサインを取り入れたりして音の重なりや和声の響きを感じ取らせながら三部合唱をさせていく。

②器楽教材「風を切って」では、パートにふさわしい楽器を選択させたり曲の速度、強弱、バランス、打楽器など、曲の感じを工夫させたりすることで、響きのあるアンサンブルを作り上げていく。

2 題材の目標

- ・人の声の特徴を聴いて美しさを味わったり、いろいろな楽器の音色を生かしたりして、美しい響きで表現することができる。
- ・三部合唱の響きを味わって歌うことができる。

| | |
|-------------|-----------------------|
| 3 教材 | |
| ・「荒野のはてに」 | (フレンチ: キャロル) |
| ・「この道」 | (北原 白秋: 作詞 山田 耕筰: 作曲) |
| ・「赤とんぼ」 | (三木 露風: 作詞 山田 耕筰: 作曲) |
| ・「ふるさと」 | (高野 辰之: 作詞 岡野 貞一: 作曲) |
| ・「風を切って」 | (土肥 武: 作詞 橋本 祥路: 作曲) |

| 4 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準 | | | | |
|-----------------------------------|---|--|--|--|
| | ア 音楽への関心・意欲・態度 | イ 音響的な感受や表現の工夫 | ウ 表現の技能 | エ 鑑賞の能力 |
| 題材の評価規準 | 人の声や楽器の音色に関心を持って、美しい響きで表現しようとしている。 | 人の声や楽器の音色の特徴を感じ取って、美しい響きを求めた表現を工夫している。 | 重なり合う声の響きや楽器の音色に気がつけて、合唱したり合奏したりしている。 | 響きの美しさや、演奏形態による表現の違いを感じ取って聴いている。 |
| 学習活動における具体的評価規準 | ① ハーモニーに関心を持って練習に取り組んでいる。 ② 三部合唱に興味を持って練習している。 | ① 自然で無理のない発声の仕方を考えている。 ② 情景にあった声の出し方を工夫している。 ③ それぞれの楽器の音色を生かし、奏法を工夫している。 | ① お互いの音の重なり合いの響きを感じ取りながら練習している。 ② 違うパートの歌声に合わせて響き合いを感じ取りながら歌っている。 ③ 曲に合った速度や強弱を工夫し表情豊かに三部合唱している。 ④ お互いの音を聴き合いながらバランスに気がつけて合奏している。 | ① いろいろな演奏形態による響き合いの違いを感じ取っている。 ② 範唱CDを聴いて曲の感じをつかんだり、それぞれの演奏部の役割について理解したりしている。 |

5 指導計画

| 次 | 時 | ☆ねらい ○学習 (指導) 内容 ・学習活動 | 【評価規準】(評価方法) | 教材 |
|---------|---|---|--|-------------|
| 第一次 | | ☆人の声の特徴を聴いて美しさを感じ取ったり、声の響きに気をつけて歌ったりする。 | | |
| | 1 | ○「荒野のはてに」の3つの旋律を覚え、3部の音の響きの美しさを感じ取りながら合唱する。 ・賛美歌を歌うCDを聴いて、声の重なるの美しさを知る。 ・「荒野のはてに」の主旋律を歌い曲の雰囲気をつかむ。 ・中声部と低声部を練習する。 ・3つのパートに分かれ、パートごとに練習し、歌い方を工夫する。 ・響きを感じ取りながら三部合唱する。 | 【ア①】ハーモニーに関心を持って練習に取り組んでいる。(歌う態度) | 荒野のはてに |
| | 2 | ○響きを感じ取りながら旋律の流れに気をつけて三部合唱をする。 ・パートごとに分かれ、旋律の流れに気をつけて練習する。 ・響きを感じ取りながら三部合唱する。 | 【ウ①】三部合唱に興味を持って練習している。(パート練習の様子、歌声の聴取) | 荒野のはてに |
| | 3 | ○歌声の美しさや響きを味わって歌う。 ・「この道」「赤とんぼ」を聴いて、それぞれの歌声の特徴に気づく。 ・「山田耕作」について知る。 ・自然で無理のない発声の仕方で歌う。 | 【イ①】自然で無理のない発声の仕方を考えている。(歌声の聴取) | この道 赤とんぼ |
| | 4 | ○いろいろな演奏形態による響きの違いや美しさを味わいながら聴く。 ・「この道」「赤とんぼ」をいろいろな演奏形態で聴き比べ、それぞれの特徴を感じ取る。 | 【エ①】いろいろな演奏形態による響き合いの違いを感じ取っている。(ワークシート) | この道 赤とんぼ |
| 5 | ○「ふるさと」の情景を思い浮かべ、表情豊かに歌う。 ・範唱を聴いて曲の感じをつかむ。 ・歌詞の内容から感じ取った情景や曲の気分について話し合う。 ・主旋律を歌詞唱する。 | 【イ②】情景に合った声の出し方を工夫している。(歌声の聴取) | ふるさと | |
| 第二次 | | ☆声の出し方や楽器の音色を工夫して合唱したり合奏したりする。 | | |
| | 6 | ○お互いの響きを感じ取りながら「ふるさと」の三重唱をする。 ・それぞれのパートの音を確認する。 ・和声の響きを持った歌声を聴き、めあてを確認する。 ・3人ずつに分かれ、1・2段目を中心に三重唱の練習をする。 ・歌い方の工夫を生かして三部合唱する。 | 【ウ①】お互いの音の重なるの響きを感じ取りながら練習している。(パート練習の様子、歌っているときの表情) | ふるさと |
| 7 本時 | | ○お互いの響きを感じ取りながら「ふるさと」の三重唱をする。 ・それぞれのパートの音を確認する。 | 【ウ②】違うパートの歌声に合わせて響き合いを感じ取りながら歌っている。 | ふるさと |

| | | | | |
|-----|----|--|---|-------|
| 第三次 | 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・1・2段目と違うところを出し合い、めあてを確認する。 ・3人ずつに分かれ、3・4段目を中心に三重唱の練習をする。 ・グループごとに発表し、お互いの良いところを発表しあう。 <p>○「風を切って」の曲の感じをつかみ、旋律の重なり合う響きを感じ取って①②を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱CDを聴いて情景を想像し、曲の感じをつかんだり、各パートの特徴や役割に気づいたりする。 ・①②のパートを階名で歌ったり、リコーダーで練習したりする。 ・①②のパートを合わせて練習する。 | (パート練習の様子、歌っているときの表情) | 風を切って |
| | 9 | <p>○和音パート、低音パートを練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・③④のパートの感じをとらえる。 ・リズム読みやリズム打ちをする。 ・楽器を選び、③④のパートを練習する。 | 【エ②】範唱CDを聴いて、曲の感じをつかんだり、それぞれの演奏部の役割について理解したりしている。(鑑賞しているときの表情、つぶやきや発言の観察) | ふるさと |
| | 10 | <p>☆声や楽器の音色の特徴を生かし、その重なり合う響きを味わいながら表現する。</p> <p>○「ふるさと」の曲の山を感じ取り、曲に合った速度や強弱を工夫して、重唱したり合唱したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで歌い方を工夫しながら合唱する。 ・曲にあった速度や強弱を工夫しながら、三部合唱する。 ・工夫した速度や強弱を生かして合唱する。 | 【ウ③】曲に合った速度や強弱を工夫し、表情豊かに三部合唱している。(グループごとの発表) | ふるさと |
| | 11 | <p>○「風を切って」の楽器の音色や重なり合う響きを聴き合って、バランスのよい合奏を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員で合奏する。 ・音色・速度・強弱・音量のバランスなどを工夫し、表現を高める。 ・曲想を生かし、バランスのよい合奏に仕上げる。 | 【ウ④】お互いの音を聴き合いながら、バランスに気をつけて合奏している。(演奏の様子) | 風を切って |

6 本時の学習 (第7時)

【目標】 和声の響き合いを感じ取りながら、三重唱している。

【展開】

| 学 習 活 動 | ○ 教師のかかわり 【◇ 評価規準】 |
|--|--|
| <p>1 既習曲を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「荒野のはてに」を歌う。 ・トーンチャイムで音の響きを意識した音作りをする。 ・「ふるさと」を歌う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○音の重なりを意識して歌わせる。 ○「ふるさと」の三部合唱につなげられるようにする。 ○それぞれの音を確認し、スムーズに重唱に入れるようにする。 |
| <p>2 本時の学習内容を確認する。</p> | |

| | |
|---|---|
| <p>きれいな響きで三重唱に挑戦しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2段目と3・4段目の旋律の違いを話し合う。 <p>3 響きを聴き合いながら、三重唱の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習する部分（3・4段目）を確認し、グループごとに練習する。 <p>4 発表する。</p> <p>5 今日のめあてにかかわっての感想を発表しあう。</p> <p>6 次時の学習内容を知る。</p> | <p>○学習の流れを確認し、今日の学習の見通しが持てるようにさせる。</p> <p>○練習で取り組む観点を与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3・4段目の三部になるところを中心に練習させる。 ・音程のよりどころとして、トーンチャイムや鉄琴を用いていいことを確認させる。 ・響き合う場所のポイントを確認させる。 <p>○それぞれの考えを出し合うことでお互いのよさを知り、認め合う話し合いとさせたい。</p> <p>○響きがうまくできているグループを見つけながら聴かせる様に促す。</p> <p>○感想発表では、今日のめあてである響き合いを意識した感想を話すようにさせる。</p> <p>【◇ウ①】 違うパートの歌声に合わせて、響き合いを感じ取りながら歌っている。（パート練習の様子、歌っているときの表情）</p> |
|---|---|